

指導行政のポイント

## 教員採用“汚職事件”に思う

菱村 幸彦

大分県の教員採用をめぐる汚職事件は、教育界に身を置く者の一人としては、何ともやりきれない事件である。

### 大分県に限った事件なのか

校長職にある者が、自分の子を教員に採用してもらうために県教委の幹部に数百万円の商品券を渡すという教育者にあるまじき不正には、あきれ果てるが、請託を受けた県教委幹部が、頼まれた受験生の点数を水増ししただけでなく、他の受験生の点数を引き下げる操作までしていたというモラルの喪失ぶりには、もはや言うべき言葉もない。

採用汚職事件は、管理職の登用をめぐる汚職事件に発展している。3人の管理職が自ら警察に出向いて、管理職になるのに金券を渡したことを自白したという。大分県の教育界の腐敗ぶりは、目を覆うばかりである。

問題は、こうした腐敗が大分県に限定されたものかという点にある。残念ながら、私自身の体験からみて、今回の事件の根は深いように思う。

もう40年前になるが、私は、文部省から中国地方のある県の教職員人事担当課長として出向したことがある。

着任後、就任挨拶に県警本部長を訪れたところ、本部長は、同じ大学の先輩としてお話ししたいと言って、机の引出しから10通ほどの封書の束を取り出し、この封書は、教員の転勤や昇格人事をめぐる、金品の授受があることを密告する投書であると述べ、「人事担当課長として、くれぐれも気をつけるように」と忠告を受けた。

当時、私は、まだ30代初めで、人事から金品の授受があるなんて想像だにしなかったので、本部長の話には驚いた。

課に戻って、課長補佐に県警本部長の話をしたら、「そうした噂はありますが、当課の職員に限っては、

決して不正はありませんから、安心して下さい。ただ、教員の中には人事異動について、先輩校長や市町村教育長や教育委員、さらには市町村議員や県会議員など、あちこちに頼み込む教員がいて、その依頼のために金を使っているようです。それがうまくいかなくて、県警への投書になっているのではないのでしょうか」という答えだった。

やがて人事の季節となったら、私の自宅にも人事に関して、直接・間接に要望に来る人が多くなった。そうした人たちは、挨拶がわりといって、贈り物を持ってくる。それを持って帰ってもらうのが大変だった。初めはていねいに断っていたが、どうしても置いていこうとする人に、つい声を荒らげることもしばしばあった。

### 教育界における贈答の「文化」

次の年、私の課に学校現場から新しい管理主事を迎えることになった。就任直前、その管理主事予定者が自宅にあいさつに来て、心ばかりの御礼ですと、小さな包みを差し出した。中をみるとデパートの商品券が入っている。

私は「はじめに忠告しておきます。あなたは県庁の人事担当者なのだから、人事に関して公正を疑われるようなことをしてはなりません。そのためには、職務に関して、人に金品を渡したり、人から金品を受け取るようなことを、決して、してはなりません」と言って、商品券を本人に返した。

教育界には昔から、転勤や昇格でお世話になった人にお礼をするという風習があるように思う。大分県の事件のように人事担当者に数百万円の商品券を渡すというのは異常であるが、人事でお世話になった人に何がしかのお礼をするのは、かなり広く行われているのではないか。そうした教育界の“文化”が、今回の事件の背景にあるように思う。

(ひしむら・ゆきひこ = (財)学習ソフトウェア情報研究所 理事長)

■最新刊!

菱村幸彦【著】

B6判・定価2,205円

教育開発研究所

全訂新版『はじめて学ぶ教育法規』 法改正を踏まえて全面改定!